

現地では水田畦畔だけでなく、多様な活用方法が検討されている。例えば果樹園への活用や畜舎周囲・施設ハウス周囲の衛生・環境美化等である。その他農業分野以外で公園緑地に活用し

ている事例もある。

今後、水田畦畔管理の軽労化をはじめ、雑草抑制や景観形成等、様々な場面での活用が可能と考えられる。

(迷ったときのみ(実)頼み)

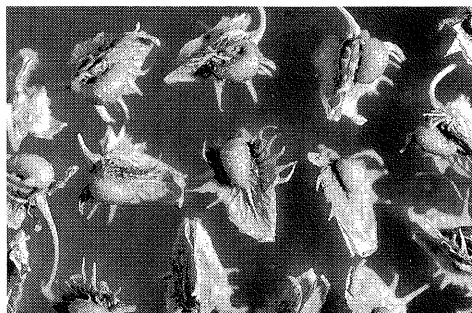
タデ科のギシギシ類は春から夏にかけて路傍、畦畔、荒地といった所に普通に見られ、草丈はいずれも1m以上にもなる大型の雑草である。ギシギシの名は、果実がギシギシとつまったようについているからギシギシ。また、熟した果穂を振るとギシギシと音がするということからギシギシと名付けられたという説があるが真偽の程は定かでない。

わが国にはこの仲間には在来種のギシギシ、帰化植物のエゾノギシギシ、アレチギシギシ、ナガバギシギシの4種が普通に見られ、ごく一部の地方にコガネギシギシがある。形はいずれも細長い根生葉を多数出し、茎を叢生して大きな花穂をつけるので、見分けるのは頗る難しい。この4種を簡単に見分けるコツは果実にある。ギシギシはこぶ状にふくれた果実の周囲に広い翼があり、翼の縁にギザギザつまり鋸歯がある。ナガバギシギシは形はギシギシと同じだが、翼の縁にギザギザつまり鋸歯がない点が見分けのポイントである。エゾノギシギシはこぶ状の果実のまわりに三角状の翼があり、基部に刺状の突起が数本ある。アレチギシギシはこぶ状の果実が3稜形につき翼の幅が狭い点が特長である。文章では分かりにくいですが、写真で見較べると一目瞭然、ルーペでのぞくとよく見える。一度試して見てはいかが？

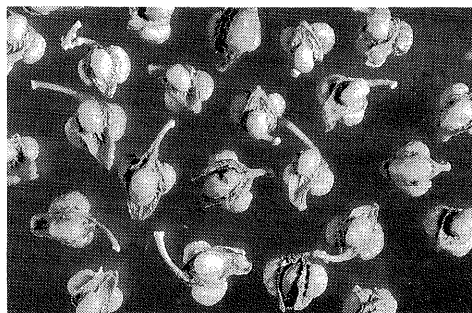
(S)



▲ギシギシ



▲エゾノギシギシ



▲アレチギシギシ